

企業ニュース ソニーグループ

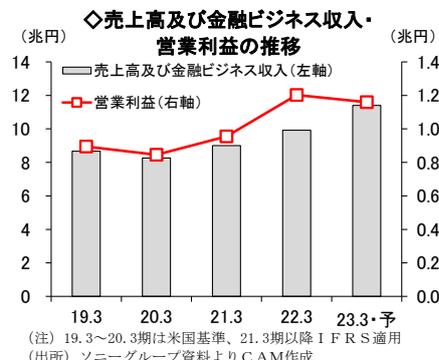
(東証プライム : 6758) <http://www.sony.com/ja/>

作成者: 村上大志

日本を代表する民生電機メーカー

1946年設立。日本を代表する民生電機メーカー。事業領域はエレクトロニクスにとどまらず、ゲームや音楽、映画などのエンターテインメント、金融と幅広い。半導体関連の I & S S (イメージング&センシング・ソリューション)で展開するスマホ向けイメージセンサーの世界シェアはトップクラス。22.3期のセグメント別売上高及び金融ビジネス収入構成比は G & N S (ゲーム&ネットワークサービス) 27%、音楽11%、映画13%、E P & S* (エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション) 23%、I & S S 10%、金融15%、その他1%。

※E P & S : 22年4月よりE T & S (エンタテインメント・テクノロジー&サービス)に名称変更



PS5の増産、イメージセンサーの需要拡大などに期待

22.3期の連結業績は売上高及び金融ビジネス収入が9兆9,215億円、前期比10%増、営業利益が1兆2,023億円、同26%増。セグメント別では、映画、E P & S、音楽が業績の伸長に貢献。映画はスパイダーマン新作の大ヒットや海外における人気テレビ番組の大型ライセンス収入に加え、事業譲渡に伴う利益計上などで大幅な増収増益となり業績をけん引した。E P & Sではテレビやデジタルカメラの製品ミックス改善が、音楽ではストリーミング売上の拡大が業績に寄与した。

23.3期の会社計画は売上高及び金融ビジネス収入が11兆4,000億円、前期比15%増、営業利益が1兆1,600億円、同4%減。為替前提は1米ドル=123円、1ユーロ=135円。年間の営業利益への影響は1円の円安で米ドルが約10億円、ユーロが約70億円のプラスと試算している。セグメント別ではG & N SやI & S Sで大幅な増収を見込む一方で、映画は一時的な利益計上がなくなるため大幅な減益を見込んでいる。PS5の今期の販売台数計画は部品調達のみどりが立っている1,800万台としているが、5月末に開催された事業説明会では供給制約の改善により生産を大幅に増やす方針が示されており、計画以上の販売が期待される。イメージセンサーは車載向けの需要拡大、スマホ向けでは大判化による収益性の改善が示された。音楽では「T i k T o k」や「M e t a」、 「R o b l o x」などとのビジネス機会の増加で、収益基盤の拡大が見込まれる。

[株価動向・投資判断]

一時的な要因を除けば全領域で成長トレンドにあるといえ、業績の拡大が期待できよう。

<6758 ソニーG 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高及び金融ビジネス収入	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	8,998,661 (-)	955,255 (-)	997,965 (-)	1,029,610 (-)	836.8	55.00
22.3	9,921,513 (10)	1,202,339 (26)	1,117,503 (12)	882,178 (▲ 14)	711.8	65.00
23.3 予	11,400,000 (15)	1,160,000 (▲ 4)	1,130,000 (1)	830,000 (▲ 6)	-	未定

(注) 22.3期よりIFRSを適用。21.3期は遡及適用した数値のため伸び率は「-」表示



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/6/24)	11,250 円
年初来高値 (高値日)	15,725 円 (22/1/5)
同 安値 (安値日)	10,220 円 (22/5/10)
予想 P E R (23.3 予)	- 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,775.6 円
P B R	1.95 倍
予想配当利回り	- %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (22.3)	12.8 %
発行済み株式数	126,108 万株